

2020 年 11 月 4 日

報道関係者各位

株式会社自律制御システム研究所

ACSL、政府衛星データのオープン＆フリー化及びデータ利用環境整備・データ利用促進事業に採択

ー災害・インフラ点検・警備・農業分野における SLAS 測位ドローンの有効性を検証ー

株式会社自律制御システム研究所（所在地：東京都江戸川区、代表取締役社長 兼 COO：鷲谷 聡之、以下「ACSL」）は、一般財団法人日本宇宙フォーラム（JSF）が経済産業省の委託を受けて募集した、「令和 2 年度 政府衛星データのオープン＆フリー化及びデータ利用環境整備・データ利用促進事業（オープン＆フリー衛星データ実証事業）」に採択されましたので、お知らせいたします。

本事業採択により、ACSL は準天頂衛星システムみちびきのサブメータ級測位補強サービス（以下「SLAS」）を用いて、災害・インフラ点検・警備・農業分野でどれだけ高度な輸送が可能になるか検証いたします。

ACSL が開発をする国産の産業用ドローンは、物流、インフラ点検、災害等、様々な分野で採用されています。現在採用されている産業用ドローンの多くは、全地球測位システム（Global Navigation Satellite System、以下「GNSS」）からの信号を受信することで位置情報を把握しますが、一般的に誤差が生じることが知られており、正確な位置情報を把握できない場合があります。そのため、災害での物資救援など正確な位置情報を把握する必要がある場面では、安全に離着陸できない等の問題により、本来到着したい場所までドローンを飛行させることができないという課題が発生します。

本事業で検証する SLAS は、準天頂衛星システムみちびきから補強情報を配信することにより、GNSS の測位誤差を小さくすることで、より正確な位置情報を把握することを可能とします。ACSL は、SLAS 測位が可能なドローンを開発し、災害・インフラ点検・警備・農業分野でより正確な輸送が可能になるか、検証を実施します。また、それぞれの分野における活用現場を想定し、想定される地形（平野部、山間部、河川など）で GPS と SLAS の測位精度を測定し、現場ごとにどのようなミッションを実現できるようになるかを比較することで、ドローン活用における SLAS の有効性を検証します。

ACSL は、本検証を通して、将来的に当社の産業用ドローンへの SLAS 測位の搭載を検討してまいります。

※本事業の採択については、以下 URL をご参照ください。

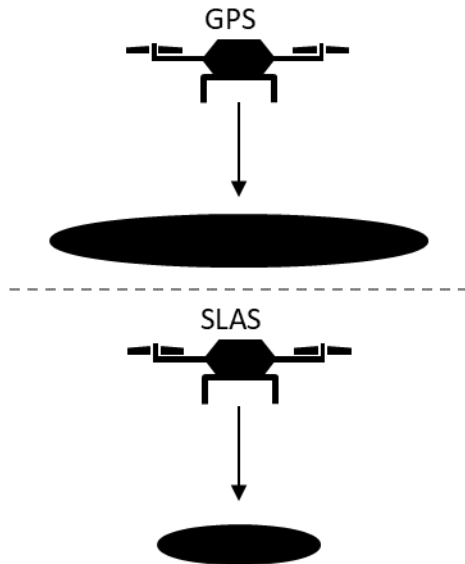
一般財団法人日本宇宙フォーラム お知らせ

<http://of-satdata2020.space/>

■実証事業の図

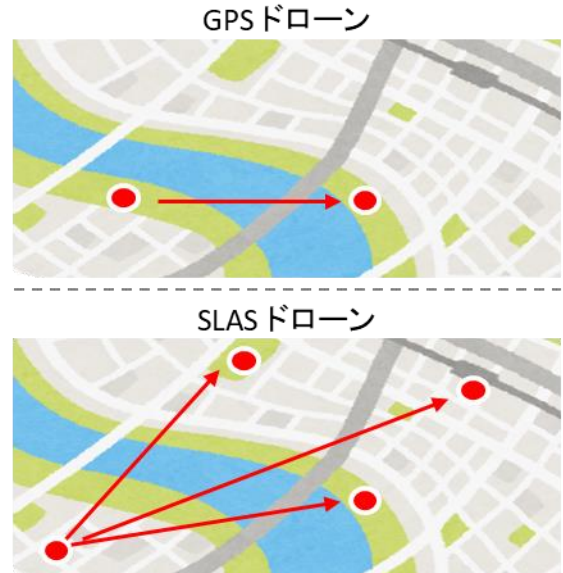
SLASドローン試作・評価

SLAS測位が可能なドローンを試作し、離着陸での測位精度検証を行なう



有効性検証

GPSとSLASの着陸精度の違いから、各分野で達成可能なミッションがどう変わるかを検討/比較する



【株式会社自律制御システム研究所】

ACSL は、産業分野における既存業務の省人化・無人化を実現すべく、国産の産業用ドローンの開発を行っており、特に、画像処理・AI のエッジコンピューティング技術を搭載した最先端の自律制御技術と、同技術が搭載された産業用ドローンを提供しています。既にインフラ点検や郵便・物流、防災などの様々な分野で採用されています。

株式会社自律制御システム研究所会社概要は <https://www.acsl.co.jp/company/> をご覧下さい。

【ニュースリリースへのお問い合わせ】

株式会社自律制御システム研究所（ACSL）

担当：廣嶋絢子（ひろしまじゅんこ）

Tel: 03-6661-3870 Email: sales@acsl.co.jp

以 上